

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300033		
法人名	有限会社 グループホームふるさとの家「城下」		
事業所名	グループホームふるさとの家「城下」		
所在地	島原市新湊二丁目丙1830番地		
自己評価作成日	平成23年1月2日	評価結果市町村受理日	平成23年2月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成23年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の行事などの参加に力を入れ、小学校や地区の祭り、地区の芋掘り、市民清掃など幅広く参加することにより、地域の方から行事へのお誘いや、おすそわけなど頂くようになり地域の一人と認められたようでとても嬉しく思っている。とても外出の機会も多く入居者の笑顔を大切に、職員一丸となってケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郷愁を誘う古民家に、昔ながらの大家族の暮らしの有り様を再現している当事業所は、その特色と共に質の高いケアにおいて信頼と安心を得ている。開設11年を経て平成23年4月に近隣に新築移転予定である。認知症ケア、グループホーム運営におけるパイオニアである代表者を先頭に、理念に忠実に地域連携と『当たり前に分らしく普通』に暮らせるよう利用者の思いと能力を大切にする支援に真摯に取り組んできた。その核となる部分は揺らぐことはないが、4月からの変化による利用者のリロケーションダメージに対する配慮や、機能的になる施設での室内活動の広がりや法人内施設がより近くなることで協働できるメリットといった期待をもって課題に取り組むこととしている。利用者、職員が心身共に馴染んだ現在の建物で育まれた支援の、今後新たな展開と向上が期待できる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は「老いても障害を持っても当たり前」に自分らしく普通に暮らしたい、の事業者理念を把握し、毎日の仕事の前に読み、理念どおりの介護を心掛け、手を出しすぎず、そっと見守り、できないところをさりげなくお手伝いし、その人らしくを大切に実践するよう心掛けている。	利用者の今ある能力、意欲を尊重して、生活の中で家事などに関わって頂いている。身辺自立に関しても出来る範囲で行って頂いている。職員としては一人ひとりに多く関わり、個別で話す機会を持つように努めて利用者の笑顔を引き出すようにしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃挨拶を交わしたり、おすそわけのやり取りをしたり、急な雨のときは洗濯物を気がけて教えてくださったり。又、地域の行事や祭りに参加し地域との交流を図っている。さらに地域より祭りの担ぎ手や芋ほり、スポーツなど、参加を依頼され大変喜んでいる。	暮れの餅つきなど地域の方が楽しみにされている事業所の行事もあり、交流は定着しており、3月完成予定の新施設の上棟式にも多くの近隣住民に集まって頂けた。一人外出されている利用者を見かけると地域の方がすぐ連絡をくださっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃地域へ積極的に出て行くことにより、認知症であっても楽しく生き生きと暮らしていることを地域の皆様に知っていただいていると思う。又、ホームの行事への参加や地域を含めたところの行事なども企画し、利用者の日常生活を感じていただく機会を作っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では、利用者の日常生活やケアの内容、行事のお知らせやこれからの取り組みなどを報告し、それに対し協議していただきより良いケアの実践につながる意見を頂戴している。又地域の実情も知ることができ沢山の意見が出てより良い会議の場である。	会議は法人内の二事業所で合同開催している。2ヶ月に1回の開催で順調に推移しており、地域からの情報提供、意見交換は活発に交わされて事業所の運営において大きな役割を担っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のGH協議会を通じ、また、運営推進会議の行政からの出席もありいろいろな情報や意見も仰ぎながら事業運営に生かしている。	代表者は認知症ケアの第一人者であり、行政との連携、協働の機会も多い。管理者は今期4月より着任したということで、これから関係作りに努めていきたいとしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人では身体拘束・虐待防止委員会を設置し、毎月1回各事業所内の委員が集まり会議を行っている。各事業所で目標を設定し、職員全員が意識した取り組みと評価を会議の中で発表、検討次の目標へとつなぐ取り組みをしている。	例えば外出傾向の強い方の場合、寄り添って見守り外出へは付き添って納得されるよう支援している。「待って」と言う前に利用者の状況を見極めどんな言葉かけが適切かを考えるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設の方針として虐待は絶対にあってはならないと、職員全員が意識しながらケアに努めている。しかし、虐待と思っていない事が虐待につながっている事がないかどうかを委員会で話し合い職員全体で取り組む環境を整えている。又法人独自で講師を依頼し、職員研修で勉強の機会を作り外部の研修に参加する事もある。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の取り巻く環境などを考慮し、必要がある利用者については権利擁護や青年後見制度を利用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用に関して、事前に説明と見学をしていただき、納得のいったところで契約に結びつけている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のご家族に対するお手紙により意見要望など言いやすい環境の整備、また面会時などに職員からたずねたり要望の確認を行うようにしている。	目標達成計画に沿って、献立、食事風景の写真など「食」に関する情報をお便りに添えて家族へ送った。「ご馳走なんですね」といったリアクションが家族から寄せられ、今後もこうした取り組みを継続したいとしている。	情報提供で家族からも反応があったということで、「食」に関するアンケートを引き続きとってみるといった、自然な流れで利用者、家族の意見をリサーチし、フィードバックされていかれることにも期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の職員全体会や事業所の会議等で職員の意見を聞く機会を設けており、日頃もなるべく職員と話し合いを持ち、また管理者会議の場で集約した職員の意見を聞く機会があり、経営が許す限り要望にはこたえるようにし、運営している。	転居に伴い多忙な状況であるが、代表者からは現場は入居者第一でケアに専念して欲しいとの言葉もあり、着任間もない管理者を見守り支えてくれている。管理者からは考えを職員全員へ投げかけ、日常的に話し合いを行なっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の向上心を大切にし、職場環境を整え、教育に対しても力を入れ、各種の研修を受ける機会を設けてもらっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT及びOF-OJTにより知識、技術を習得することができ、さらに資格取得に対しても協力的で、個々の能力を大切にし、質の向上につなげている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会やレクリエーションを通じ交流を深め、情報交換を行いお互い刺激し合いサービス質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの初期段階では、慣れない環境であり、不安感が募ることを鑑み、密なるコミュニケーションや他者との交流を深めながら環境にも慣れてもらう事を職員全体で勘案し安心して生活してもらえる環境づくりに心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族ご本人に事前面談、及び、施設見学をしてもらい雰囲気なども感じてもらうことから取り組んでいる。その上で利用後は要望も言いやすい雰囲気が構築でき信頼関係も生じやすくなると考え実行している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族がどのようなサービスを今求めているかをその時々で伺いながら該当するサービスを取り入れ、さらに他の事業所サービスへの紹介も含め自己選択できやすい環境を提供している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を主、職員を従の関係に心がけ、教えたり、教えられたりの関係で、利用者の昔取った杵を大切に共に暮らしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係の修復も介護職員としての役割と考え、本人とご家族がより密な関係を保てるよう支援に心がけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者にとって関係の深い環境を大切にし、病院への面会、自宅訪問、墓参り、及び友人知人の面会など定期的に行えるような支援をしている。	本人の希望があれば家族のもとや地元の馴染みの場所へ買い物ごとのドライブでお連れしている。利用者を訪ねてきてくださる知人の方からは「ここは来やすいから」というお言葉を頂き、気軽に面会されている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は細かく把握しており、共に快適な生活をしてもらえるよう、トラブルの回避、お互いに支えあえる関係作りなど、工夫しながら支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も本人ご家族との関係を継続している。行事のときの手伝い、差し入れ、訪問ボランティア、など協力的に考えてもらい、いい関係作りとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や移行を尋ね、それに沿えるよう努力している。又意思疎通が困難な方にはご家族に尋ねたり、表情や行動を把握したうえでその方の立場になって考えている。	日常生活や行事を通して気づいたことや、体験談、生活歴からその人らしい生活の中で活かせるヒントを探っている。例えば、字を書くことが好きな方にはホーム内の様々なものに名前など書いて頂いている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や、本人ご家族の情報を大切に、その生活を継続していただけるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送り等によりその日の体調や表情、精神状態を見て一日の過ごし方を考え支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、主治医の意見を参考に今何が必要か本人の立場に立ち、スタッフで話し合い、介護計画を作成し了解を得ている。	プラン作成後1ヶ月の状況を見極めて変更の必要があれば臨機応変に対応できるようにしている。4月の移転後、環境の変化に伴う課題が増える予測を立てている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動や表情、発言、スタッフの対応や感じた事などを記録に残し、出勤したらその記録を読むことから始めるとともに申し送りや情報を職員間で共有し、より良いケアにつながるよう心がけている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が同伴できない病院受診や、家族の行事などの送迎、つれあいの入院先への面会など、本人の状況に合わせた支援も行い、ご家族にも喜んでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、芋掘りやお祭り等地域からの誘いがあり参加したり、買い物や、催し物等積極的に出掛け、地域の中で心豊かに暮らしている実感を味わってもらよう心掛けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を基本としながら、本人やご家族の希望する病院受診を支援している。又転医する時等は医師との関係や信頼関係を損なわないよう注意している。	往診も多いが、受診支援を行なっている。家族同伴の受診以外は、受診記録をとり変化がない場合は毎月のお便りで、特変があった際は電話で家族へ報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも異変があれば、すぐに看護師への連絡、指示を仰ぎ、病院受診が必要であれば、速やかに主治医に連絡を行い受診している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合、スムーズな治療・退院ができるよう、必要な情報を提供している。入院中も定期的に訪ね状態把握に努めている。退院後も病院との連絡を密に取り合い利用者が安心して過ごしていただけるように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期にそなえ早い段階から、本人、ご家族の意向を尋ね、事業所での支援できる範囲内を説明し方針を決めている。又、重度化、終末期を迎えた時は、再度尋ね、本人、ご家族の意向の変化がないかの確認をしている。	昨年は事業所での看取りの事例はなかったが、体調が悪化された利用者のケースでは家族、医療機関と話し合い、最終的に医師の判断で入院されて亡くなられた。この重度化の経緯を、今後に残す参考資料として意識して記録を行なった。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルに備えてあり、応急手当、初期対応の知識を持っている。又、研修や看護師の指導により、実践力を身に付けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害時、地域の避難場所を掲示している。又、避難訓練を地域の消防団の方の参加もあり、協力体制が築けている。避難経路に物を置かないよう常日頃気がけたり、週一回の自己点検を行っている。	避難経路である玄関、縁側の段差の問題を解消すべく緊急時に設置できる簡易スロープを導入し、目標達成計画にも沿って、いざという時にスムーズに行動できるように反復して訓練に努めた。	4月に転居する新事業所では、施設建物の把握、緊急時の対応の確認を早急に取り組みられ、現在と同様に反復の重要性をもって多様な想定訓練の実施を継続していかれることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を把握し、その方に合った言葉掛けや対応することで誇りやプライバシーを損ねないよう心掛けている。	利用者間において人格の尊重を気遣う場面もあり、職員の言葉でのフォローもポジティブな言葉に置き換えて説明をしている。羞恥心への配慮は、排泄に関する言葉は直接的な表現を抑えるようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な場面で、声掛けを工夫し、自分の思いや希望を引き出せるような支援を行い自己決定できるようにしている。自己決定できない方には、表情や態度にて支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員全体が一人ひとりのペースを大切に思い、少しでも希望にそった支援を心掛けていますが、時と場合によっては、過剰介護になっている時がある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪・髭剃り、化粧、衣服など、出来る方は見守り、出来ない方は、その人らしいおしゃれが出来るように希望を尋ねながら支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の畑へと出掛け、収穫し、どのような料理が良いか尋ねたり、出来る方は食材の下ごしらえ、味見などをして頂き皆の手で食事を作り、片付けをしているという役割作りになっている。	利用者の人間関係にも配慮して、笑顔のある楽しい食卓であるようにテーブルの着席位置を決めている。地元野菜をふんだんに使った献立は、栄養バランスと季節感が考えられた心身を癒す心配りがされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主菜、副菜2品、汁物、デザートを準備し、栄養バランスを考えて作っている。食事、水分摂取量を記録に残し職員全員で把握に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、必ず口腔ケアをしている。不十分な方は、一部介助を行い、出来ない方は、介助にて行い、口腔内もガーゼやスポンジを使用し支援している。毎週金曜日ポリデント洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	棟の目標にて一人ひとりの一ヶ月のオムツ類の把握に努め日中綿パンツにPを使用することでオムツの使用を減らしたり、排せつパターンを把握し、早めはやめのトイレ誘導にて失禁を減らしている。	現状維持を基本に自立支援を行なっている。日中は出来る限りトイレを使用し、着脱や後始末など身の周りの可能なことは自身でしていただいている。夜間のみ安全と安眠に配慮しポータブルトイレ、おむつを使用頂いている場合もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホーム独自の体操を毎日行ったり、利用者の排便のリズムを把握し、十分な水分補給や、食物繊維の多い食材を使用したり、乳製品を毎日摂って頂き、自然排便を心掛けています。それでも出ない方は、薬での調節を医師と相談し行っている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日いつでも入浴できるように準備し、一人ひとりに声掛けを行い、好きな時間、順番、体調に合わせて支援している。又、好みの温度にしてリラックスして気持ち良く入浴して頂けるよう心掛けしている。	寒い季節はことに浴室と脱衣所の温度管理に配慮している。湯船に浸かっている時間は見守りの職員と1対1の対応であり、リラックスした中でコミュニケーションをとることが出来る時間ともなっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望、体調、習慣に応じ休息をしてもらったり、日中を活動的に過ごして頂く事で夜間安眠につながっている。オムツ使用の方は、失禁時毎回清拭を行う事で気持ちよく眠って頂けるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表により把握に努め副作用や症状の変化など気をつけ主治医に状態報告を行い処方していただいている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や日課など昔からの役割を大切に、続けていけるよう支援しています、一人ひとりの希望や、出来ることを見つけ役割作りにも力を入れている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出好きな方が多く、毎日外出しています。時には、新聞などの情報により遠出をしています。又ご家族と相談し、仏様参りや、入院中の奥様への面会、孫様のスポーツ応援へ出掛ける支援もしている。	室内ばかりにならないよう、外気を感じてもらうことを大切に頻繁に外出している。その為の健康管理も怠りなくしている。買い物などに行くとカートを押したり、買い物袋に品物を入れるなど出来ることもして頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じて、大金ではないが、お金の管理をして頂いています。散髪や買い物など、ご自分で払ってもらい、ご家族面会時確認して頂いています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入院されている奥様へのお見舞いの手紙を書いたり、家族への手紙を支援したところ、返事が来て本人も涙を浮かべて喜ばれていました。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんの目につく所へ出掛けたときに写真を飾ったり、玄関や、洗面所など季節の花を飾り、入居者に喜んでもらっています。	暖かな陽だまりのある縁側や二間続きの和室の居間は、昔のままの風情を残し、郷愁を誘う落ち着いた場である。トイレや浴室、キッチンが改築され使いやすいよう配慮がなされている。室温、湿度もチェックされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の好きな席、なじみの人と隣へ座るなど、どこへ座られるか、選択してもらうような声掛けを行い気持ち良く過ごして頂けるよう心掛けている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に、ご家族の写真を飾ったり、位牌を置かれたり、家で使用されていた家具などを置き、自宅での生活に近づけた支援を行い、居心地よく過ごして頂いている。	寝室は、利用者の意向や状態によって、居間としている和室や二人部屋、ベッドをおいた一人部屋を使い各自快適に安眠している。身の回りの品や持込の馴染みの品はそれぞれの所定のスペースに置かれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	古民家を改装した建物となっている為、段差もあり、決して安全な状態とはいえないが、各場所に手すりをつけたり、職員が目配り、声掛けにてリスクを少しでも減らすように支援している。		